

中部地区の社会教育をつなぐ、ひろげる

わくわく中部



中部教育局社会教育担当だより平成 27 年 11 月 6 日発行

1 1月の主な行事予定

11月8日(日)

電子メディアとの付き合い方フォーラム(新日本海新聞社中部本社ホール)

11月19日(木)、20日(金)

中国・四国地区社会教育研究大会(山口県山口市)



第3回中部地区人権教育懇談会(PTA対象)開催!

今回は県の事業として取り組んでいる人権教育プログラムを体験していただきました。このプログラムは、保護者が学んだことを児童生徒が学習に生かし、また児童生徒が学んだことを保護者が受け止めるような学習内容を目指しています。体験していただいたプログラムについては、研修会に生かしていただけるよう、使いやすいものにしていきたいと考えています。

「人権教育プログラム体験」90分

ファシリテータ 人権教育プログラム作成委員

1 アイスブレイク 簡単な自己紹介ゲーム

2 展開① 資料を読んで話し合う

- ・「この後A母はどうしたらよかったですか」
- ・「あなたが、自分の子どもから同じように聞いたらどうすると思いますか」
- ・「自分がやろうと思った行動はいじめの解決に繋がるでしょうか」

3 展開② 子どもたちへのメッセージを考える

- ・いじめを生まない、助長させないために保護者として何が出来るか考え、子どもたちへのメッセージとして模造紙にまとめる。

4 まとめ(ファシリテータ)

- ・保護者と教職員が良好な人間関係を保ち、同じ目線で子どもに向き合うことが大切である。
- ・いじめを個人の問題として捉えるのではなく、クラス、保護者、地域の問題として捉え、なくしていくことが必要である。

資料「どうしようか」※要約

A母は、A娘より同じクラスのB君がいじめられていることを聞かされる。その後、A母は友達のF母にいじめのことをメールで伝える。F母はBやB家族のことをあまり知らないといって他人事。このままじゃあB君が

かわいそう。どうしようか。



【参加者の感想より】

◆研修方法について

- ・他校の保護者と意見交換でき、みんなとメッセージを作り上げていく過程がとても参考になった。自校でもやってみたい。
- ・参加型の研修会はたくさんの意見が聞け、その分だけ気づきが生まれるのでとてもよいやり方だと思う。

◆研修内容について

- ・もう少し発問をわかりやすくした方がよいと思う。
- ・保護者としていじめにどう向き合うかしっかり話が出来た。「子どもたちへのメッセージ」は、保護者の考えをまとめるよい手段である。
- ・いじめの立場は流動的なこともありうるので、加害者、被害者の両方に寄り添うことを忘れてはいけないと思った。



♡ かけがえのないあなたたちへ ♡

～わたしたち保護者は、いじめを許しません!～
そのために、私たち保護者は

- ★ 家では
 - ・親子でたくさん話をします。
 - ・一箱に過ごす時間を大切にします。
- ★ 保護者みんなで
 - ・情報交換は、かしません。
 - ・保護者同士もグループで固まりすぎず、みんなでコミュニケーションをとります。

「子どもたちへのメッセージ」



一緒にやりましょう！！保護者の皆さん

県内保護者の協力のもと、県 PTA 協議会では「メディア 21:00」運動を実施されます。

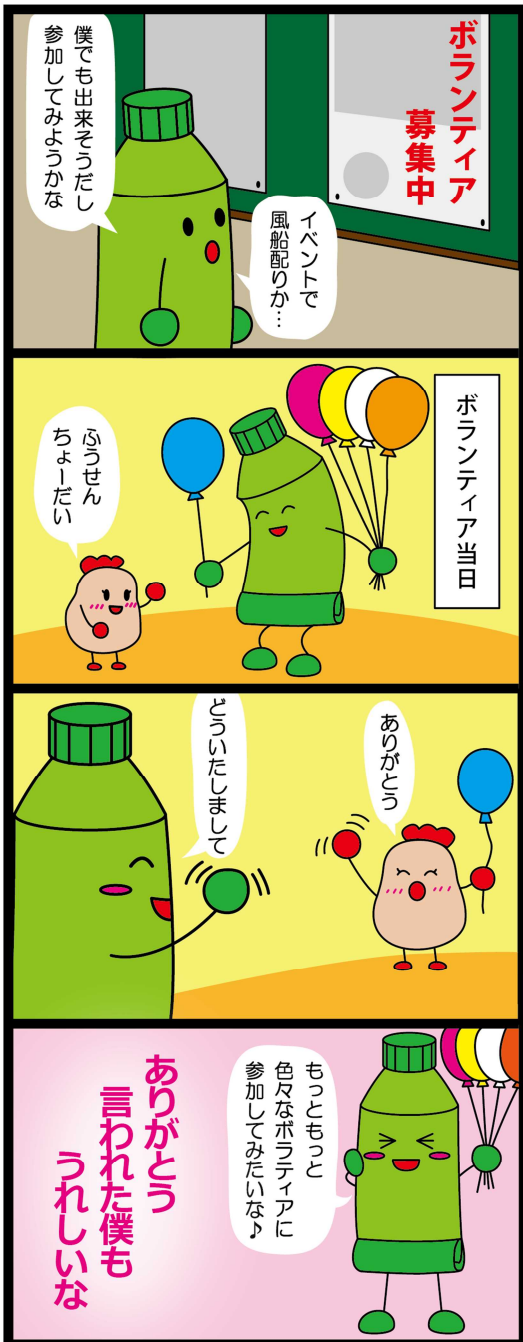
【県 PTA 協議会長より】

「県 P では、これまでこの問題について多くの時間を費やして議論を重ねてきました。その結果、この問題は、スマホ、ネットにあるのではなく心の問題であるとの認識に至りました。そこで、私たちは、鳥取県子どもたちには 21 時以降は LINE やメール、(オンライン)ゲームをやめて相手の時間を尊重しようという運動を行うことを提案します。」

多く子どもたちは SNS など相手がある使い方をしていきます。相手を思いやるためにもこの運動を広げていきたいですね。詳しくは鳥取県 PTA 協議会の HP をご覧ください。

ちゅうぶくん

～ボランティアっていいな～



鳥取県 P T A 協議会

ニジュウイチ

「メディア21:00」運動がはじまりました!

21時以降は、友だちを巻き込むような LINE (ライン) やメール、ゲームを止めて相手の時間を尊重しようという運動です。



「我が家のルール」

ケータイやスマホを持たせない選択肢を含め、ネットやゲームのルールを子どもと話し合い、家族みんなで作りましょう!

【ご注意!】

音楽プレーヤー、ゲーム機、スマホは、ネットに繋がります!

※ケータイやスマホ等の保持を推奨するものではありません。

「啓発用チラシ」は鳥取県 PTA 協議会の HP に掲載されています。

【あとがき】

ボランティアの秋。「えらかったけどやたら充実感があつた」と、ある時、学校の環境整備ボランティアをした人がうれしそうに話をしてくれました。仕事量もさることながら、その先にある皆の驚きが目に浮かんだそうです。人に喜んでもらえることは大人も子どももうれしいものです。(岸本)

中部教育局 社会教育担当 岸本隆治

電話 0858-23-3253

FAX 0858-23-5203

E-mail kishimoto-r@pref.tottori.jp

